

年頭挨拶

社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力



全国の地方水難救済会、救難所支所の皆様、新年明けましておめでどうご

ざいます。平成十八年の年頭を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

はじめに全国の救助員の皆様におかれましては、日夜を問わず海難出動などでご苦労されており、まずもって感謝申し上げます。

さて、全国で発生します沿岸海難に出動された皆様の出動報告を見ますと、海難の状況は様々ですが、その状況に応じて適切な方法を駆使して、人命救助などに立ち向

かう崇高な姿勢がうかがえ、頭の下がる思いがいたします。今年も、事故のないように十分に留意され、救助活動にご尽力をお願いいたします。因みに、昨年は十一月末までに、全国で三五七件の海難に出動し、二八七名、一三四隻を救助し、沿岸海難救助に大きな成果を挙げることができました。これも偏に全国の救助員の皆様の積極果敢な取り組みと崇高なボランティア精神によるものと心から敬意を表する次第であります。

また、発足して二〇年になりました洋上救急事業は、間もなく、延べ六〇〇件の出動を数えようとしており、この間、無事故で推移していることは関係の皆様のご努力のたまものであります。本洋上救急制度は、世界に類をみない緊急往診システムで、外国からも高い評価を得ており、船種別の往診要請割合を見ますと、五八パーセントが漁船、四二パーセントが汽船で、そのうち外国船からの要請は全体の三五パーセントと高く、引き続き海上保安庁をはじめ関係官庁や関係諸団体のご理解とご支援を頂き、

本制度の周知に努めるとともに、当会の主要事業として推進して参りたいと考えているところであります。

さて、当会の運営は、日本財団や日本海事財団その他の諸団体のご支援を頂きながら成り立っているところでありますが、的確な事業運営を行い、人命の救助等の事業目的を達成するためには、財政基盤の一層の確立を図ることが永遠の課題であると認識しています。その一翼を担う青い羽根募金の拡充は重要課題であり、昨年、女優の東ちづるさんをアドバイザーとして委嘱しましたが、青い羽根募金の知名度を高め、国民の皆様に一層理解していただくよう努力をして行く所存でありますので、本会と地方組織が一体となって活動できるように、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、地方水難救済会をはじめ各救難所・支所の皆様のご健勝とご活躍、そして皆様にとりまして今年がより良い年となりますよう祈念いたしましたして、新年のご挨拶といたします。